（仮称）ふれあいの杜子ども館基本計画書【概要版】

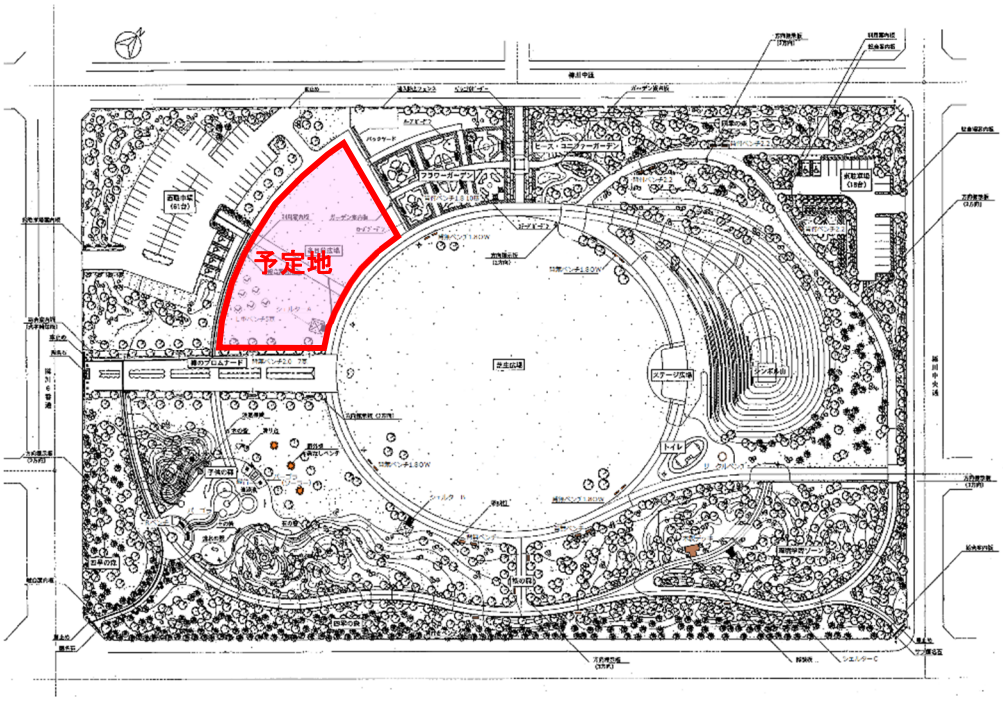
１．計画の位置づけ

（仮称）ふれあいの杜子ども館は、若い世代の定住が進む樽川エリアを中心に子ども・子育て支援機能の充実を図るため、老朽化するおおぞら児童館に替わり、児童館機能に加えて放課後児童健全育成事業、中高生の居場所、子育て世代の支援拠点、多世代交流の場として、複合的な機能を有する施設とすることを基本的な方針とし、新たに石狩ふれあいの杜公園内に整備する予定です。

本計画は（仮称）ふれあいの杜子ども館の基本コンセプト、整備する諸室の内容、施設の配置等の案をまとめたものです。今後は、令和４年度の施設開設に向けて、本計画を基に、基本設計・実施設計を行い、さらに施設の建設工事を行っていきます。

２．施設計画地

（仮称）ふれあいの杜子ども館の計画地は、石狩ふれあいの杜公園多目的広場内（石狩市樽川４条１丁目）とする。【敷地面積：2,237 ㎡　　想定施設規模：1,258 ㎡】



３．施設の基本的な考え方

■施設の基本的な位置づけ

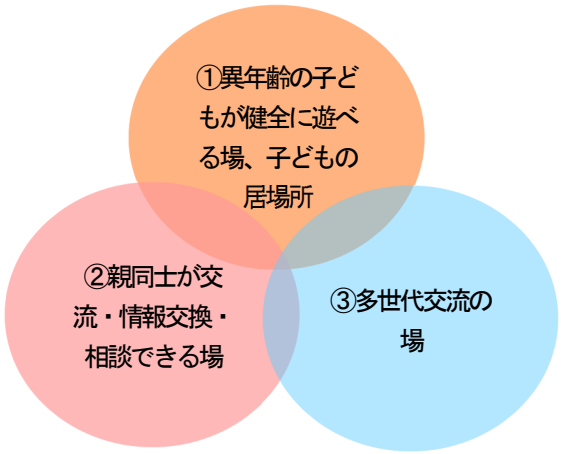
大型児童センターの機能を基本ベースに、放課後児童クラブ、子育て支援拠点、地域交流拠点などの機能を複合する施設

■施設コンセプト

「子どもを中心に多世代がふれあい、つながる全天候型ひろば」

都市公園は身近な憩いの場であるとともに、屋外での自然のふれあいや体を動かす遊びの場を提供し、子どもの健全な発育に不可欠な効果をもたらす機能を有している。こうした公園の機能と子ども・子育て支援拠点機能が融合することで、子どもの居場所や子育て支援の充実のみならず、多世代のふれあいと交流が促進され、公園利用の向上との相乗効果が期待できると考える。

石狩ふれあいの杜公園内に整備する施設は、乳幼児から高校生までが天候や季節を問わず安心して過ごすことのできる屋根付のひろばとして、また、子どもの育ちを支える市民や学校、地域等がつながる拠点として機能しながら、放課後児童対策や公園の防犯といった地域課題の解消にもつながるものと考える。



■施設検討における大切な視点

- 公園機能を損なわない
- 周辺環境と調和したデザイン
- 周辺住宅への配慮
- 利用者がアクセスしやすいレイアウト
- 共生社会への対応
- バリアフリー
- 環境への配慮（例：再エネを活用した CO2 削減等）

■施設の特色

①公園内という立地を活かし、シーズンを通した公園利用の促進と子ども・子育て支援の相乗効果が図られる
②子どもの遊び、特に運動と健康増進を促進するための機能を有している
③子育て中の親子が施設内だけでなく、施設周辺でも憩い、交流できる
④中学生や高校生でも気軽に訪れ、自由に過ごせる空間、機能が保持されている
⑤共生社会に対応した、地域の活動・交流拠点として運用可能な設備・レイアウト

４．機能ごとの利用イメージ

○多目的ホール（遊具コーナー、休憩・見守りコーナー含む）

異年齢の子どもが自由に遊べる空間とすることを基本とする。乳児や幼児がハイハイや絵本、ままごとなどで楽しんだり小学生の静的な遊びや中高生の勉強、読書などを行ったり、思い思いに過ごすことのできる配置とする。また、一角には遊具コーナーを設け、可動式の大型遊具やボルダリングなど、異年齢の子どもが動的な遊びを楽しめる空間とする。

利用者の状況を見ながらフレキシブルに活用できるよう遊具は可動式とする。また、そういった子どもの遊びの空間を保護者が見守ることができるよう、ベンチなどを配置することも求められる。さらに、保護者同士の交流や地域住民と施設利用者の交流を促すプログラムの検討も求められる。

配置については、各諸室へのアクセスしやすいよう施設の中心に配置し、中高生が自由に時間を過ごせるようなレイアウトとする。さらに、公園広場を一望できる視界を確保し、公園との一体感を大切にする。

想定面積	414 ㎡程度

※あいぽーとの同様機能の面積　約 340 ㎡（概算）

○想定什器：下駄箱、荷物収納、ソファー、テーブルセット、本棚、ベンチ、遊具
　　学習用テーブル、インフォメーションボード、
○想定設備：水飲み場、空調機

○文化活動室（フレキシブルコーナー含む）

中高生のバンドやダンスの練習、地域住民の貸し室利用、ママさんのサークル活動など、子どもから大人まで幅広い世代が活動できる空間とする。

地域住民などに予約制で貸し出しを行う際は子どもの利用を優先とする。また、料金設定や予約条件などを検討して利用者が偏らない配慮や利用しやすい工夫が求められる。

室内にはキッチンを配置して料理教室や食育イベント、子ども食堂などのプログラムにも対応できるようにする。また、多目的ホール混雑時は子どもの遊びの空間とするなど、フレキシブルに活用できるよう室内に可動式の壁を設け、必要に応じて広さを調整して活用できるようにする。

その他、子どもや保護者と地域住民の交流のきっかけとなるプログラムとして、住民のスキルを活かした講座なども想定される。

想定面積	70 ㎡程度

※あいぽーとの同様機能の面積　約 103 ㎡（概算）
※面積の根拠：約 30 人程度が会議や講座などの活動ができる適度な面積
　　約 20 人程度がダンスや軽体操などを行うことができる適度な面積

○想定什器：収納、作業テーブル、椅子、壁面大型鏡
○想定設備：調理台（個別給湯器）、システムキッチン（個別給湯器）、空調機
○その他：防音機能

○保育ルーム（おむつ替えスペース、授乳室含む）

乳幼児と保護者がゆっくりと過ごせる空間とする。室内には、おむつ替えスペースや授乳室を設けることとする。また、乳幼児も屋外で安心して遊ぶことができるよう、専用の屋外ひろばも設け、公園と一体的な活用ができるようにする。

また、保護者の日常的な子育ての相談ができるよう、専属スタッフを配置して保護者とコミュニケーションを取りながら悩みなどを引き出していくことも求められる。

想定面積	92 ㎡程度

※あいぽーとの同様機能の面積　約 55 ㎡（概算）

※面積の根拠：市内の大規模施設で約 75 ㎡。当地区の人口密度を考慮した面積

○想定什器：収納、ベンチ収納、おむつ替えカウンター、授乳室用ベンチ

○想定設備：シンク(個別給湯器)、子ども用トイレ、空調機

○その他：防汚、抗菌に配慮した床材

○放課後児童クラブ

放課後児童クラブを利用する子どもが増加することを想定し、これまでのおおぞら児童館よりも広い面積の空間とする。放課後児童クラブは遊戯室と近い配置として行き来しやすいようにする。また、施設に入る際の受付は必要ないが、入口から放課後児童クラブへの動線は受付スタッフの目が届くようにする。

想定面積	100 ㎡程度

※あいぽーとの同様機能の面積　約 63 ㎡（概算）

※面積の根拠：児童 1 人あたりの面積 1.65 ㎡を満たし、1 支援区分 30 人、合計 60 人までが収容可能なスペース

○想定什器：作業テーブル、椅子、収納

○想定設備：空調機

○遊戯室（器具庫・倉庫含む）

遊戯室は、異年齢の子どもが自由に身体を動かして遊べる空間とする。基本的には、年齢の異なる子どもたちが同時に遊ぶ空間となるが、お互いに譲り合い、状況から判断しながら遊ぶことを期待している。中高生は、バスケットボールなどのスポーツを行い、小学生はボール遊びのほか、一輪車や縄跳び、遊具コーナーでは、大型遊具の中での遊びやボルダリングを行うなどが考えられる。また、子どもたちがいない時間帯には地域住民が健康運動などを行うことも想定される。

さまざまな遊びや運動に対応できるよう、運動器具を収納する器具庫も設置する。

イベント時には、遊戯室を公園利用者や地域の方にも開放し、屋根のある大きな空間として、多目的ホールと一体的な活用として、夏祭りの会場やテーブルと椅子を設けた飲食コーナーなどの利用を想定する。なお、遊戯室内の倉庫には、屋内外の設備や遊び道具を収納し、外からも出し入れが可能とする。

想定面積	464 ㎡程度

※あいぽーとの同様機能の面積　約 136.76 ㎡（概算）

※面積の根拠：（ミニ）バスケットボールコート 1 面分、バドミントンコート 2 面分

○想定什器：運動器具（基本設計時に運動内容検討）、可動式大型ミラー、ガラス破損防止フェンス、バスケットゴール、コートライン、器具庫上部に防災備品置場を検討
※バスケットゴールは中学生以上もプレーできるよう高さは可変式が望ましい

○想定設備：天井設置暖房器具

○その他：運動に適した防音性、防滑性、耐久性に配慮

○受付・事務室（ミーティング・相談スペース含む）

受付・事務室で気を付けなければならないのは、防犯対策である。そのため、玄関及び施設内全体が見渡せる配置が望まれる。カウンターは、明るく開けた印象となるよう大きく設けつつ、プライバシーに関わる情報が漏洩しない対策が必要となる。

加えて、ミーティング・相談スペースを設けることで、悩みを抱えた子育て世代が気軽に相談できる空間を目指す。児童の静養コーナーとしての利用も想定する。

想定面積	67 ㎡程度

※あいぽーとの同様機能の面積　約 67.45 ㎡（概算）

※面積の根拠：職員 6 名を配置した際に事務作業や打ち合わせを行うのに十分な面積

○想定什器：受付カウンター、収納、事務机、椅子、ホワイトボード

○想定設備：インターフォン、空調機

○テラス

屋根のある屋外空間として、施設利用者、公園利用者ともに多くの利用が想定される空間である。高齢者がちょっと休憩する際に座ったり、天気の良い日には子連れの家族が日除けをしながら昼ごはんを食べる場所になったり、公園で遊ぶ子どもを見ながらママさん同士でおしゃべりをしたり、中高生が放課後におしゃべりをしたりする空間を想定する。

また、夏祭りなど地域のイベントでの活用やキッチンカーでの飲食の提供など、日常的な活用が考えられる。

想定面積	140 ㎡程度

○想定什器：屋外用テーブル、屋外用椅子

○想定設備：屋外用手洗い場

○玄関・風除室

玄関及び風除室は、気軽に入りやすい設えとしながら、セキュリティ面に配慮する必要がある。風除室周辺は、車椅子の方やベビーカーを引いた方も利用しやすいよう、空間を広く設ける、フラットな床とするなどのバリアフリーに配慮する必要がある。また、靴箱、バギー置き場を設ける。

想定面積（玄関・風除室）	15 ㎡程度

※あいぽーとの同様機能の面積　風除室：約 25.3 ㎡（概算）

○想定什器：インフォメーションボード

○想定設備：インターフォン

○トイレ

トイレは、子どもにもプライバシーがあることを考慮し、周りからの視線に配慮した設え及び配置とする。また、公園利用者も利用することを想定し、施設入口からアクセスしやすい場所に配置する。

想定面積（トイレ）	36 ㎡程度

※あいぽーとの同様機能の面積　トイレ：約 30.9 ㎡（概算）

○想定什器：鏡、紙巻器、手すり

○想定設備：大便器、小便器、手洗器、掃除用シンク

※多目的トイレの想定設備：おむつ替え台、ベビーシート、大便器、手洗器

■その他、施設全体の利用イメージ

○ボランティアの活躍・育成

地域住民のスキルや好きなことを活かしたボランティアのプログラムや登録制度などを設け、施設利用者と地域住民の交流につなげることが求められる。そのような仕組みがあると、住民の生きがいづくりや、日常の見守りの関係づくりなどにも寄与することが考えられる。

ボランティアの仕組み導入の際には、安全管理や子どもと接する際の配慮事項などを学んでもらうなどの配慮も必要となる。

○災害時の施設活用

災害時の避難所としての指定はないが、公園や施設を活用した防災訓練などで地域の防災力を高めることと合わせて、実際の災害時に避難所で生活する子ども連れの方が周囲に気兼ねなく過ごすことのできる場として開放するなどが想定される。

○公園全体の利用（施設と一体的に利用）

公園内の施設という特色を活かすため、公園での遊びや運動の拠点となるようなプログラムや利用方法が求められる。

５．施設の概要（想定）

※基本設計時に検討

面　積	約 1,200 ㎡
用　途	屋内遊戯施設等
構　造	鉄骨造もしくは RC 造と鉄骨造の混構造
階　数	地上 1 階
設　備	上下水道：敷地最寄りの上下水道本管に接続
	ガス：なし
	電気：公園内に引込み後、地中埋設
	灯油：基本設計時に検討
	空調：一般部は EHP を想定
	室外機は屋外に設置し景観に配慮した目隠しを設ける
	体育館暖房を検討
	換気：建築基準法に基づき設置
	その他：照明、電話、LAN、セキュリティシステム
消　防	消防法に基づき適正に設置
建設費	建物工事費　約 6.5 億円（類似事例を参考）

６．事業スケジュール

	2019 年 （令和元年）	2020 年 （令和 2 年）	2021 年 （令和 3 年）	2022 年 （令和 4 年）
検討 （市民ワークショップ等）	市民ワークショップ、方向性検討			春　オープン（予定）
基本・実施設計	基本・実施設計、地盤調査等			
工事		確認申請等	工事　開設準備等	

7．施設レイアウトイメージ

施設配置の考え方

・体育館は、公園エントランスや遊歩道に面していると圧迫感があり、築山から正面に高さのある建築物があると景観も損なうため、住宅地側に配置する。

・2 階建てやロフトの場合、職員の目が行き届かないほか、バリアフリー法の点からエレベーターの設置が努力義務となるため、平屋建てとする。

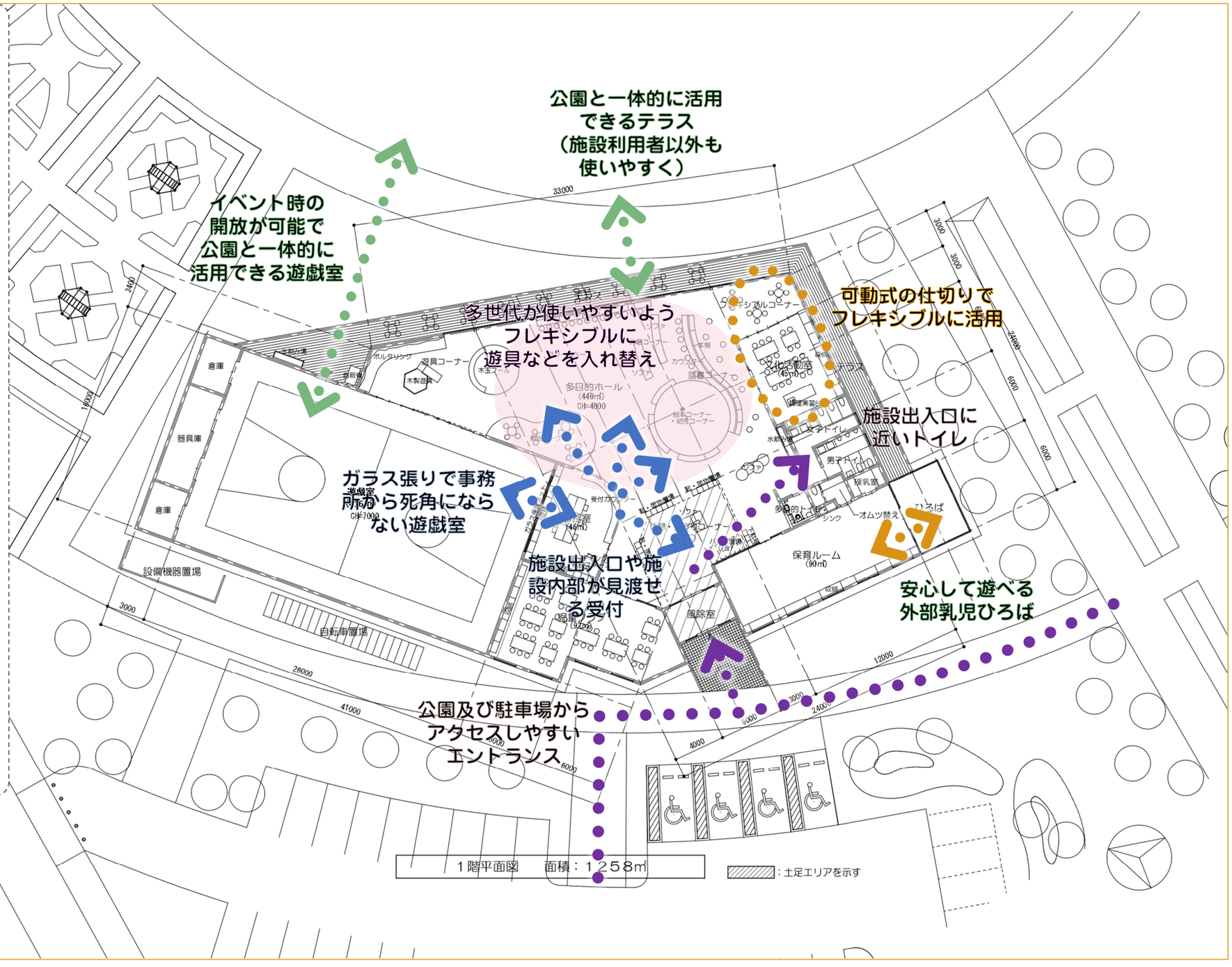
・公園の山側はガラス張りで外が見渡せるようにし、公園との一体感を保つ。

・施設はバリアフリー面に配慮する。

・フレキシブルに施設を活用できるよう、遊具や備蓄品等の保管スペースを確保する。（児童クラブ床下や体育館倉庫の上部スペースなど）

・施設の各スペースは異年齢の子どもが一緒に過ごせる空間とすることを基本としながら、状況に応じて時間などで子どもの年齢による利用条件を分けるなどの対応も可能とする。

・土足エリアと土足禁止エリアをすみ分ける（靴箱を設置、体育館は上履きを利用）などを検討し、乳幼児から高齢者や障がい者まで誰もが利用しやすいようにする。



1階平面図　面積：1258㎡